

## C02 の排出量取引と森林・木材の環境貢献度「見える化」(概要)

全国木材組合連合会 藤原敬

「森への恩返し - C02 吸収力を活かす - 」

### 1 はじめに

地球温暖化対策の日本政府の方針は福田ビジョンで一步踏み出した。政治的な妥協の産物であった京都議定書の 8%でなく必要な行動から逆算して今何が必要なのかという議論を正面から受け止めることとなり、そのためには「政府や企業だけでなく国民が動く必要がある。」となった。

### 2 地球環境の現時点と森林バイオマスの役割

二酸化炭素の急激な増加は、温暖化問題というレベルでなく、現代社会の持続可能性に対する挑戦。21 世紀できるだけ早く持続可能な社会=低炭素社会に向かう必要があるが、森林とバイオマスは持続可能な社会にとって極めて重要な役割を担っている。

### 3 温暖化防止対策の中での排出量取引の意味

環境を管理するツールとして排出量取引は、ビジネスを環境に動員する重要な役割を持っている。10 月下旬日本でも排出量取引とそのための国内クレジット制度が動き出した。参加企業の募集とともに、国内クレジットの方法論の提案募集が始まっている。政府は、地球温暖化対策本部で枠組みを作っただけで、内実には国民が使いこなすかどうかに係っている。

### 4 排出量取引と山村の活性化の将来

二酸化炭素削減活動を売買する方法は、排出量取引、カーボンオフセット、山村再生センターなど政府肝いりの制度ができる方向にある。それらの制度を使うためには売買のために「未利用のバイオマスの積極的利用」が明確になる必要。このままにしておけば未利用だという証明、ダブルカウントでないという証明など、一定の手続きが要求される。東北地方の資源で東北地方の企業が活動するというローカルに解決することも重要な要素(リーケイジが少ない) 買い手が納得すること(だけ)が必要なので、やり方は多様。もちろん面倒くさいことは言わないで金を出すという岩手方式ができてそれでもよい。

### 5 おわりに

東北の森林と地球環境を繋ぐのは、気候変動条約だけでなく生物多様性条約やバイオマス生産自体のサポートをする仕組みがありうる。